

FD News letter

No.1
2015年

CONTENTS

1. 公開授業研究「教育実習(2)」
2. 開催案内「新任教員研修会」

1. 公開授業研究「教育実習(2)」

教壇実習へ向けた熱気

4月22日、29日に亘って共通教育部人社系教職教育部門の「教育実習(2)」の公開授業研究が行われた。公開アナウンスが急であったため、2週に亘って同科目の公開が行われた。この科目は教職課程に所属する4年生を対象に行われる必修科目である。公開された授業は、母校での教壇実習を直前にして行われる指導の一コマである。担当教員は、教職部門全員（岩崎・井上・渡邊・鈴木）である。

受講学生は約30名、教職科目を1年次登録する学生は毎年100名ほどであるが、年度を追うごとに、教職にターゲットを絞った学生が残り、今年度は例年より少なく、例年は40名前後とのことである。

学生が自ら切り開く議論の場

授業は、学生がこれから実施する教育実習を想定した模擬授業、それに対する学生同士の相互批判・議論が主である。各回2名の学生が模擬授業を行なう。先生役の学生が予め用意した指導案を、参加者全員に配布し、授業を行なう。他の学生達は生徒の役割をする。皆その役に成り切る。20分ほどの授業の後、授業と指導案について学生同士が活発に、厳しく相互批判を行い、議論していく。教員という立場を意識した発言が相次ぐ。この学生同士の議論の際、この週は、タイムキーパー及び議論を深めさせるファシリテーターとして、渡邊講師が議論に関わっていた。学生達の活発な意見の様子には大変驚いたが、渡邊講師の関与の仕方が上手いため、学生が議論しやすいのだろうと思われた。しかし、翌週の

29日にはさらに驚くことになった。この日は事情で渡邊講師が欠席した。何も言われぬうちに、自ら司会者を買って出た学生に続き、学生同士の批判、議論が行なわれた。その活発さは前の週と変わるところはなかった。また批判を受けてもそれをきちんと受け止め、答え、より良いものを目指そうとする姿勢が先生役の4名の学生に共通して見られた。

教職という専門性への明確なアプローチ

教員を目指す学生は1年生のときから意識的に教職課程の科目を受講している。その中で、例えば、意見を述べ合うことの重要性、間違いは恥ずべきではなく、さらに深い理解への道程なのだということを学んでいく。教職課程といえども専門学科と同様、各教員が担当している科目の隅々まで、互いに熟知している訳ではない。しかし、教員になろうとする学生にはどうあって欲しいかのイメージ、あるいは理念は共通に認識している。専門学科とは違い、カリキュラムを自由に作ることはできないが、その制約の中の3年間の成果が見られた。



学生たちの議論の後に、そこでの議論の内容も含めて、最後に担当教員によるコメントがあった。さすがに専門家としての発言で、見学者の教員にとっても自身の授業に役立てられるほどである。岩崎、渡邊、鈴木の3先生方の専門が理科教育系であるのに対して、井上先生は教育社会学系であるので、数学、理科の授業に対しても、内容よりも別の視点からのコメントが多く、興味深いものがあった。

学生たちが自学科の研究室で、あのように主体的に参加し、活発に意見を言っているかと言えば、そうではないであろう。それでは駄目だという意見もあろう。しかし、安心して意見が言い合える環境・精神風土を教員団が目指し、それを学生が理解し、その環境を維持し活性化しようとしていることに希望を感じたし、言葉そのものの意味でのアクティブ・ラーニングの実例として捉えた。(中村正人)

(写真は、授業公開当日のもの(写真上)と実習直前に大学セミナーハウスで行ったセミナー合宿の一場面(写真下)である。)

2. 開催案内： 新任教員研修会

～大学における授業とは何か～

新任教員研修会では、話題提供の後、日頃の授業で気になっていることや困っていること等について、皆で話し合ってください。この目的は、ご自身の気づきのためのきっかけづくりであり、何かを強制するものではありません。

気づきは普段と異なる刺激に依って起こりやすくなります。本研修会は本学着任直後の教員の皆様を対象にしていますが、同時に本学で長く教えておられる教員の皆様のご参加も歓迎致します。

日時 : 6月12日(金)
5限(17:00～ 1時間程度)
場所 : SC 13J教室
話題提供: 岩崎敬道(FD 専門委員会委員長、
共通教育部 教職部門)

内容:

大学だからこそできる授業—— 共に考え、新しい発見を共有する

授業とは自らの専門分野の成果を学生に伝えることであると単純に考えているのが、たいていの大学教員の実態であろう。そのために、大学での授業が高校までのそれとはどう違うべきなのかを漠然と考えていても、はっきりと意識していることは稀であろう。各教員は自分の分野についてよく分かっており、そのうえで授業に対して工夫、努力しているにも関わらず、思う様な成果をあげられないとするならば、学生のせいだけにせず、その学生を含めて、改めて大学の授業について見つめることが必要ではないだろうか。

そして参加者全員で、大学だからこそできる授業、研究者であるからこそできる授業、そして共に新しいことに挑戦できる学生を育てていく授業について意見交換し、自らの授業を改善する気づきを得る何らかのきっかけとなることを願っている。

FD 専門委員会委員

委員長	岩崎敬道 (共通教育/教職)
委員	岩尾 徹 (工/電気電子)
	熊谷正芳 (工/機械工)
	栗原哲彦 (工/都市工)
	塩月雅士 (工/エネルギー化学)
	清水由美子 (メディア情報/社会メディア)
	白木尚人 (工/機械工)
	杉本 裕代 (共通教育/外国語)
	永江総宜 (都市生活/都市生活)
	中村正人 (共通教育/物理)
	野中謙一郎 (工/機械システム工)
	星 義克 (知識工/情報科学)
	編集担当 (栗原・杉本)

FD News Letter No.1 2015

発行者: 東京都市大学 全学教務委員会 FD 専門委員会 (委員長 岩崎敬道)

発行日: 2015年6月8日